

法思想史 I

科目ナンバリング FUL-201
選択 2単位

長谷川 陽子

1. 授業の概要(ねらい)

西洋法思想の歴史的流れを、各思想家が展開した理論を中心に概観します。人間の営為にとって、法とはどのようなものであり、法を用いて人は何をしようとしていたのかを考えていきます。講義で扱う法思想は、当時の哲学・宗教・科学・文化の展開や、政治・経済の動向などとも関連しています。そうした背景を意識しつつ、各法思想家の理論と基本的特徴をつかむために、原典に触れつつ解説をします。法思想史 I では古代から中世、近代までの思想を中心に扱います。

2. 授業の到達目標

- ① 法思想の歴史的な流れを理解することができる。
- ② 現代の法と法思想との関連を把握することができる。
- ③ 講義で得られた知見を、言語化して他者に説明することができる。

3. 成績評価の方法および基準

学期末の論述式試験(80%)を中心に評価します。出席確認を兼ねた感想シートを配布し、内容に応じて加点(20%)をします。

4. 教科書・参考文献

教科書

戒能通弘・神原和宏・鈴木康文著 法思想史を読み解く ―古典／現代からの接近― 法律文化社

参考文献

その他参考文献については、随時お知らせします。

5. 準備学修の内容

授業の該当箇所の教科書とレジュメ内容などの予習・復習を行ってください。

関心を持った原典については、各自で読み進めるようにしてください。

6. その他履修上の注意事項

内容の連続性から法思想史Ⅱを継続して受講することが望ましいです。

講義中は、他人への迷惑行為および私語を禁じていますので、該当の場合には退室をしていただきます。

7. 授業内容

- 【第1回】 イントロダクション:授業の概要と進め方 法思想史の説明
- 【第2回】 古代ギリシアの法思想(1)ソフィストの自然法思想
- 【第3回】 古代ギリシアの法思想(2)ソクラテス・プラトン
- 【第4回】 古代ギリシアの法思想(3)アリストテレスと自然法、正義
- 【第5回】 ヘレニズム時代のギリシア哲学
- 【第6回】 ローマの法思想①―共和政期を中心に
- 【第7回】 キケロの自然法思想、セネカの法思想
- 【第8回】 ローマの法思想②―元首政期
- 【第9回】 自然法思想とキリスト教(1)アウグスティヌス
- 【第10回】 自然法思想とキリスト教(2)トマス・アキナス
- 【第11回】 近代自然権・自然法思想(1)ホッブズ
- 【第12回】 近代自然権・自然法思想(2)ロックの自然権・自然法
- 【第13回】 近代自然権・自然法思想(3)ロックの抵抗権
- 【第14回】 自然法思想のまとめ(1)
- 【第15回】 自然法思想のまとめ(2)